

種苗生産用餌料プランクトン「ワムシ」の休眠卵量産と製品化

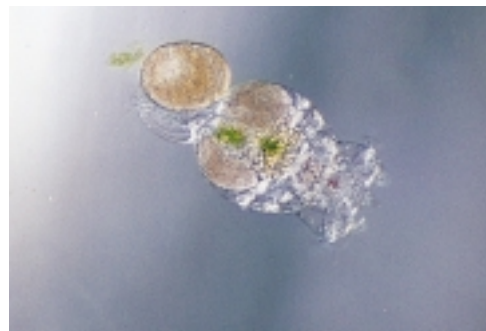
企業 / クロレラ工業(株)

研究者 / 萩原篤志 (長崎大学水産学部教授)

養殖魚類(タイ、ヒラメ、フグ、アユ等)の孵化仔魚初期餌料として不可欠なワムシの培養は、淡水産緑藻クロレラの利用により確立した。通常ワムシは、単性生殖により増殖するが、両性生殖させることにより保存可能な休眠卵を産生する。この休眠卵をついでどこでも利用可能な餌料として具現化することを目的に、その大量生産方法を検討した。

両性生殖を行わせるためには、ワムシの出現 接合 休眠卵産生という過程が必要である。それを誘導するためには、最適なワムシ密度や株の選択及び水温、塩分濃度、通気攪拌等 細かな条件により影響を受けることが判った。又その休眠卵の孵化率は、株種、乾燥法、保存法等によっても大きく影響される。

モデル化の結果は、1トン水槽規模で約10個/mlの休眠卵を産生させることができた。今後は、商業的高密度生産のために株の検索や両性生殖誘導に関する更なる検討を行ない、目標の40~50個/mlを目指していきたい。



休眠卵携卵 ワムシ